

特開 昭48-48648 (3)

レキ、前記アミンは前記第1の成分の電圧を
中和し水溶性にさせる後、必要に応じてグリセリン、エタレングリコール、ソルビトール、ソルビット、ラリリン、シロリン等の可塑剤、香料、気味増強剤等を加える。通常本電圧体の濃度は、水溶性調整剤中50%を10重量%程度とし、エタゾールタイプに供される。本発明に係る本電圧体は、エタゾールタイプのものが好ましく、ハアクリール、シエーベンイリール、ハアローレン等の他種成分を含むことも用いられる。

次に本発明の効果を一段明瞭にするため、実施例を上げる。

実施例 1

ハブカル1994レート60重量%、P-ハイドロキシエチル1994レート20重量%、アクリル酸20重量%の電圧体100重量部、アゾイソブチロニリル1重量部、0.2%ブタジオ

ールエーエー100重量部4成分物を、攪拌機、フンデンス、濃度計を付した電圧体槽に入れ、濃度調整に加熱して5時間反応する。反応後30センチボイズ(OP5)(25°C)樹脂を40重量%の無色透明な電圧体を得る。本実施例の本電圧体組成物は次のようになり、水溶性調整剤は水よりよくフレキシアしない、より透明な樹脂である。エタゾール型水溶性調整剤を提供する。

電圧体の100重量部組成物 10重量部

トリエーエー100	2
ラリリン	1
0.2%ブタジオニリルエーエー100	19
香料	0.1
濃度調整剤	30

本調整剤としては、フロン11/フロン12=

40/60重量比のものを用いた。以下同様。

ハブカル1994レート60重量%、アクリル酸40重量%の電圧体(100重量部)のトリエーエー100中にも、本実施例の本電圧体組成物のトリエー

ールアミン中にもこの比較試験の結果は以下に示す。

	フロン調整剤	水溶性調整剤
実施例1	○	○
従来品	×	×

本フロンは上記電圧体中フロンを用い濃度比1フロン10重量部、本電圧体30重量部(0.2%ブタジオニリルエーエー100重量部10重量部の成分)を0°Cで1時間混合後に設置後、透明の液体となり、白濁した。樹脂成分は分離し、分離する。

本調整剤はガラス板に塗布し乾燥後、電圧体は水に溶解させ、分離しない。分離するものを示す。

実施例 2

前記ビニルエーエー、ハブカル1994レート30重量%、イソブチルアクリレート20重量%、アクリル酸20重量%、1994レート25重量%

70の電圧体(100重量部)に本電圧体のベンゾイルパーオキサイドを添加し、ゼラチン1重量部を150重量部の水で溶解させたものを加え、実施例1のようになり電圧体を得る。20°Cの時間の熱処理を行なう。電圧体電圧体を得る。水溶性調整剤は、本実施例の本電圧体は次のようになり組成は実施例1と同様。本調整剤は水溶性調整剤である。

実施例2の本電圧体組成物 4重量部

水	25
ジイソプロピルアミン	1.5
ソルビトール	1
香料	0.1
濃度調整剤	30

実施例 3

アクリル酸20重量%、シクロハキシールアクリレート20重量%、ベンゾエリステート20重量%、1994レート20重量%、1994レート25重量%の電圧体100重量部を、3重量%のレベルンW(メチルメタクリレート、メタクリレート)を加えて

150 重量部中の¹⁰、¹⁰破砕力¹⁰と同様にし、¹⁰ 1952
1 重量部用¹⁰に¹⁰5¹⁰で¹⁰電¹⁰を¹⁰す。¹⁰電¹⁰は、¹⁰ト¹⁰

エチルアミンで pH を 8.0 にする。¹⁰電¹⁰合¹⁰体¹⁰は¹⁰水¹⁰
溶¹⁰化する。本¹⁰電¹⁰合¹⁰体¹⁰は¹⁰次¹⁰の¹⁰よ¹⁰う¹⁰に¹⁰な¹⁰る¹⁰。¹⁰宗¹⁰施¹⁰例¹⁰ 1 1952

と同様に、エチルアミンで水溶性に¹⁰製¹⁰成¹⁰する。

宗¹⁰施¹⁰例¹⁰ 3 の¹⁰電¹⁰合¹⁰体¹⁰の¹⁰成¹⁰分¹⁰ 10 重量部

ポリエチレンオキサイド 1 "

0.2 重量部ニオール水溶性エチル 9 "

水 10 "

香 料 0.1 "

電 解 質 2.0 "

1952

特許出願人 宇佐美忠男